

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 あそあそ自然学校

所在地	〒 9 3 0 - 0 4 6 4 富山県中新川郡上市町浅生 1 5 番地 TEL:076 - 472 - 4410 FAX: 076 - 472 - 4410 E-mail:tani@ma.net3-tv.net		
ホームページ	http://www.exe.ne.jp/~npp/asoaso/		
設立年月	1998 年 5 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日		
代表者	谷 口 新 一	担当者	谷 口 新 一
組 織	スタッフ 5 名 (内 専従 1 名) 個人会員 6 1 名 法人会員 0 名 その他会員 (賛助会員等) 0 名		
設立の経緯	近年子どもたちの自然体験率が低下しているが、自然の持つ摂理という「正しさ」に触れることは、子どもたちが生きる力や考える力を育む上での基層となる。正しさのないところでは、子どもたちはそれを見抜きしりけ拒否反応を示すか、無理に通せば思考停止してしまうだろう。生きる力や考える力を育む上で最も重要な「主体性」を、自然という正しさの中で子どもたち自身の五感で見つけてほしい。 私たちは、上市町浅生地区に引き継がれてきた自然や農業文化を活かし、農生活空間を遊びと学びの場とする自然体験活動を行うために、自然学校を設立します。子どもたちが自然の中で “ それぞれの何か ” を発見することをサポートします。また、廃村の危機にある浅生地区の地域資源に感謝し、再発見し、次代に引き継いでいくために、自然学校を設立します。		
団体の目的	・ 子どもたちの個性を尊重した自然環境教育を通して、自分で考える力や自分で行動する力が育つことをサポートします。 ・ 持続可能な社会のための環境教育を行います。 ・ 農村の豊かな自然環境や文化を次代に引き継いでいくことを目指します。 他		
団体の活動プロフィール	あそあそ自然学校の代表として、行政や大学など、地域リソースとの協働により環境教育全般に取り組んでいる。 インターンシップ大学生の受入など、環境人づくりにも取り組んでいる。 【主な取り組み】 平成 16 年度...県と N P O との協働パイロット事業受託 平成 15 年度・平成 16 年度...県民カレッジ自遊塾の講座運営 平成 14 ~ 16 年度...富山県元気事業の助成受託幹事団体 平成 12 ~ 16 年度...青少年のための科学の祭典への出展 上市町母親クラブジュニアキャンプ、富山大学公開講座。 助成金：スミセイわくわくサポートプロジェクト、北陸ろうきん助成金、富山ファーストバンク社会福祉基金、キリン福祉財団助成金など。 執筆：「農業と経済」「社会教育」「月刊福祉」など。 講演：富山国際大学、上市町母親クラブ、N P O 法人エコテクノロジー研究会、永源寺町（滋賀県）吉島小学校、陽南小学校など。		

活動事業費（平成15年度）4 2 5 , 8 0 0 円

政策のテーマ

大学との連携によるエコドライブの推進

- 政策の分野
 - ・ 地球温暖化の防止
 - ・ 環境パートナーシップ
- 政策の手段

団体名：あそあそ自然学校

担当者名：谷 口 新 一

環境教育による主体的核コミュニティづくりと実施主体や実施分野の拡がり

政策の目的

- ・ 二酸化炭素排出量削減
- ・ ガソリン消費量削減による省エネルギー
- ・ 環境教育

背景および現状の問題点

原油の中東依存度がオイルショック時よりも高くなっており、日本のエネルギーセキュリティの面からも省エネが必要である。また、温室効果ガスの90%弱がエネルギー起源であり、化石系エネルギーの省エネは地球温暖化とCOP3の達成のためにも重要である。

日本における民生・運輸部門のエネルギー消費の伸びが大きく対策が求められているが、民生・運輸部門は一人ひとりのライフスタイルによるところが大きく、政策的には大きな困難を抱えているのが現状である。

政策の概要

今回取り組む自家用車などの民間家庭運輸部門は、一人ひとりのライフスタイルの見直し・国民参加がキーワードである。国民参加のためには、正しい情報と経験、気づきが主体的参加行動のきっかけとなる。正しい情報と経験、気づきのためには環境教育が重要であるとともに、その継続性のためには単なる環境教育ではなく、小さくても核となる具体的アクションを行い、行動の満足度を得るとともに、成果を仲間とわかちあいながら主体的にかかわるコミュニティが必要である。

今回「タイヤの空気圧適正化」というライフスタイルの見直しをあまり必要としないということで取り組みが容易であり、しかも省エネ効果が高いという社会的ニーズにも合致する分野に絞って行う。本政策プログラムは、小さくても行動することで確実に省エネと二酸化炭素削減効果がある核コミュニティづくりを行うとともに、核を中心に共有されたノウハウを基に、実施主体の拡がりや実施分野の拡がりを産官学NPOの協働で行う。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

平成17年4月～12月の間に、計3回、富山国際大学学生および教職員の車を対象に、同大学生が主体となり、タイヤ空気圧のチェック診断を行う。利用者に図表などで二酸化炭素削減量や節約料金を提示し、希望者にはその場で空気圧の適正化を行う。必要な簡易機器を購入し、類似団体への貸出など機器を共有する。

また、毎年10月末に実施されるとやま環境フェアや省エネ月間でのイベント会場においても、来場者を対象に同様の事業を行う。

大学構内においての目標は、延べ150台。利用距離や空気圧の遷移を記録する。とやま環境フェアなどでの目標は、2日間で延べ100台。

事業結果については、ホームページに記録し、公開する。

【予算】30万円

自動車用エアポンプ1台 5万円、空気圧測定器具5台 1万円、交通費 1万円、ホームページ作成代 10万円、事務費 13万円

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- 第一段階
- ・ 富山国際大学
- ・ 富山県
- ・ とやま環境財団
- ・ 省エネルギーセンター
- ・ NPO法人エコテクノロジー研究会
- ・ あそあそ自然学校

政策の実施により期待される効果

- ・ 省エネルギー（日本のエネルギーセキュリティの強化）
- ・ 二酸化炭素削減（地球温暖化対策、COP3対応）
- ・ 環境教育による若年層のライフスタイルへの気づき
- ・ 1つのアクションプランを実施し評価することにより次のステップへの取り組み寄与

【実施主体の拡がり】

○ 第一段階

空気圧の適正值（メーカーの指定空気圧）から 0.5 kgf/cm^2 (49 kPa 、およそ $1/4$) 減った状態では、燃費は 0.3 km/l の悪化。 100 km 走行で 0.25 リットル近くガソリンを余分に消費することになる。これは、1回の給油（約 400 km 走行）で約 1 リットルのガソリンの無駄使い、という計算になる。ガソリンの二酸化炭素排出原単位 (0.6433 kgC/l) などから、二酸化炭素削減量を計算し、効果を把握する。

年間走行距離が 1 万 km としてガソリンとしては 25 リットルの省エネ。二酸化炭素排出量としては、 16 kgC の削減となる。本プロジェクトで 250 台について適正化を行い一年間継続されたとして年間 6250 リットル、 4 tC の削減となる。

○ 第二段階

富山県大への拡がり（他大学、他NPO、関連民間企業、行政と協働し、資金面や人材面で継続的なしくみを構築する）

対象者が 1000 台として、年間 25 キロリットル、 16 tC の削減となる。

○ 第三段階

全国的な取り組みへの拡がり

対象者が 10000 台として、年間 250 キロリットル、 160 tC の削減となる。

【実施分野の拡がり】

○ 第一段階

当プロジェクト

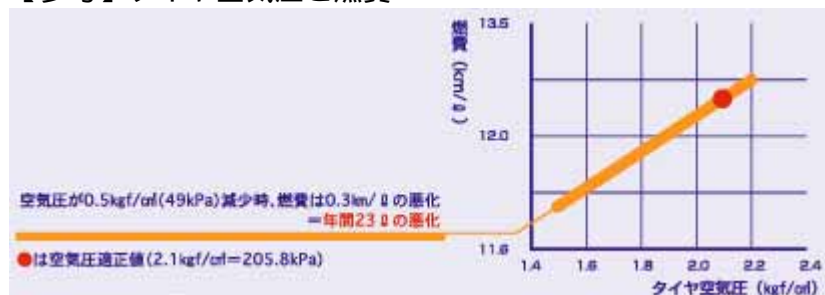
○ 第二段階

アイドリングストップなどエコドライブ全般への拡がり

○ 第三段階

スマートライフ全体への拡がり

【参考】タイヤ空気圧と燃費



省エネルギーセンターホームページより：<http://www.eccj.or.jp/drive/03/cont8.html>

その他・特記事項

○エコドライブに関するホームページ

環境省

<http://www.env.go.jp/>

省エネルギーセンター

<http://www.eccj.or.jp/drive/03/cont8.html>

日本自動車連盟

<http://www.jaf.or.jp/safety/ecodrive/eidr02.htm>

○代表者の主な関係経歴

昭和62年3月 経済学士（東京大学経済学部経済学科卒業）

昭和62年度 第三種電気主任技術者

平成16年8月 富山県地球温暖化防止活動推進員

平成16年10月 省エネルギー普及指導員